

2008年9月期

**スルガ銀行
インベスターズ・プレゼンテーション**

Meeting the Challenge of New Banking

SURUGA bank

パラダイムシフト

資本主義経済の循環

金融・実体経済の拡大(グローバル化)

景気循環のサイクルが加速

資本主義経済の
バイタリティ ナレッジエコノミー 情報(IT)力

今後は“Think Globally, Act Locally”が成長のカギ

経済循環のボラティリティの高まり

歴史的な転換期の中で新しい“芽生え”が誕生

工業化・情報化社会から

“知識経済社会”(ナレッジエコノミー)へ

手工業社会 工業化社会 情報化社会 **知識経済社会**

“知識経済社会”とは

情報・資源・資本がグローバルに移動する中で、
知識こそが競争力の源であり、知的な労働力が支える経済社会

～知識経済社会で求められるもの～

知識生産性
の向上

付加価値生産性
の向上

情報生産性
の向上

日本社会の構造変化

『人口減少／少子高齢化』→“**少人化**”時代の到来

国内市場の縮小

経済成長の成熟

社会構造の再編

人口・資本の都市への集中

企業の合併・吸収／世界進出

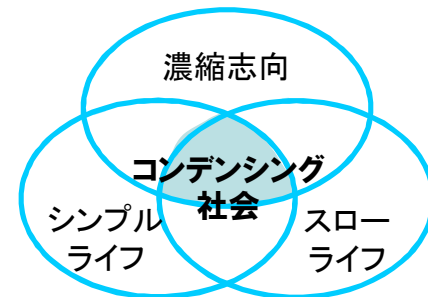
道州制への移行

社会の基本的価値観の変化

人口増加を前提とした
「**成長・拡大・活力**」という
価値観

人口減少を想定した
「**成熟・濃縮・余裕**」という
価値観

『**濃縮(コンデンシング)社会**』



独自価値を提供するスルガのビジネスデザイン

市場の特性を活かし、スルガの独自価値を提供
スルガのリテール特化戦略により培ったノウハウを最大限に発揮

主要な市場

ダイレクトバンク

インターネット・コールセンター
によるダイレクトチャネル

首都圏をはじめとし、
札幌/名古屋/大阪/福岡/仙台
その他主要な都市圏における
ホームローン中心の事業展開

広域事業

コミュニティバンク

静岡 / 神奈川の従来型の
フルバンキングサービス

日本郵政グループの全国に
広がる約24,000の拠点

代理店事業

経営資源の効率的・効果的な配分

コア事業

住宅ローン
事業

フリーローン
事業

クレジットカード
事業

資産運用
サポート事業

スモール・
ミドル法人事業

総合的なエリア戦略を
可能とする
スルガの無形資産

価値観
Our
Philosophy

リテール文化

ダイレクトバンキング
オペレーション

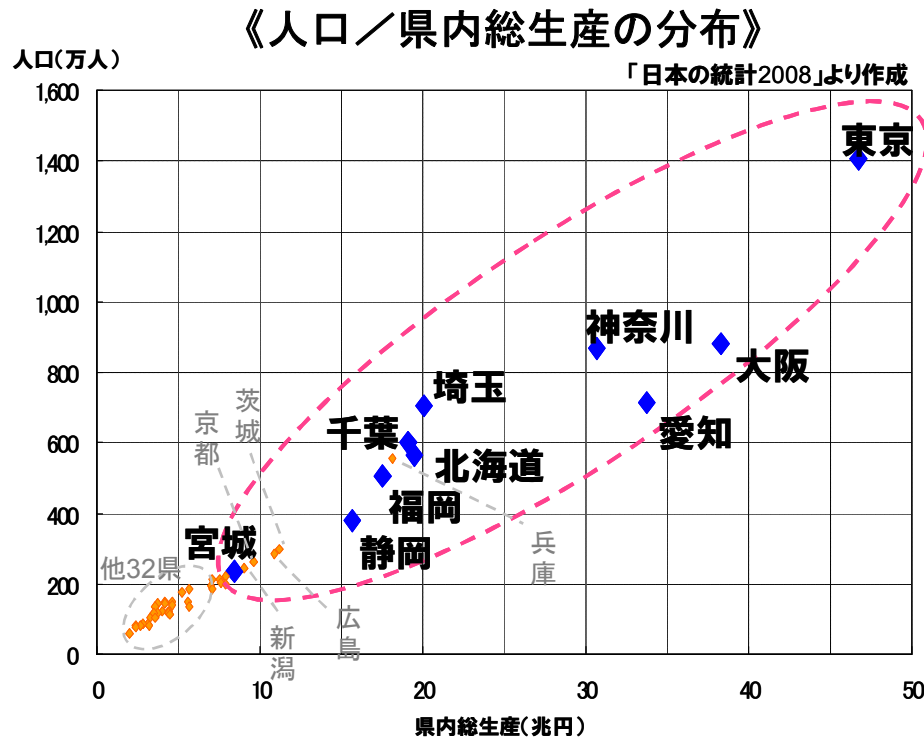
システムインフラ
プラットフォーム

地域に根付く
顧客基盤

他を圧倒する
スピード・柔軟性

道州制を見据えたスルガの広域事業戦略

大都市圏に集中する人口と経済



全国の人口・県内総生産の
約60%が大都市に集中

道州制の動向を見据えた
成長性の高いエリアを
取捨選択へ

スルガのネットワーク広域化戦略

広域事業で注力する事業ドメイン

経営資源を効果的・効率的に活用し、未開の市場における新たなマーケットを創出

住宅ローン

フリーローン

カードローン

資産運用

住宅ローンに加え、カードローン拡販のための戦略拠点へ

1999年～

首都圏に進出



独自の
営業展開・
リテール特化戦略
で培った
スキル・ノウハウ

One to One
の提案力

2008年5月～

広域展開へ

札幌 08年5月～

福岡 08年8月～

仙台 08年10月～

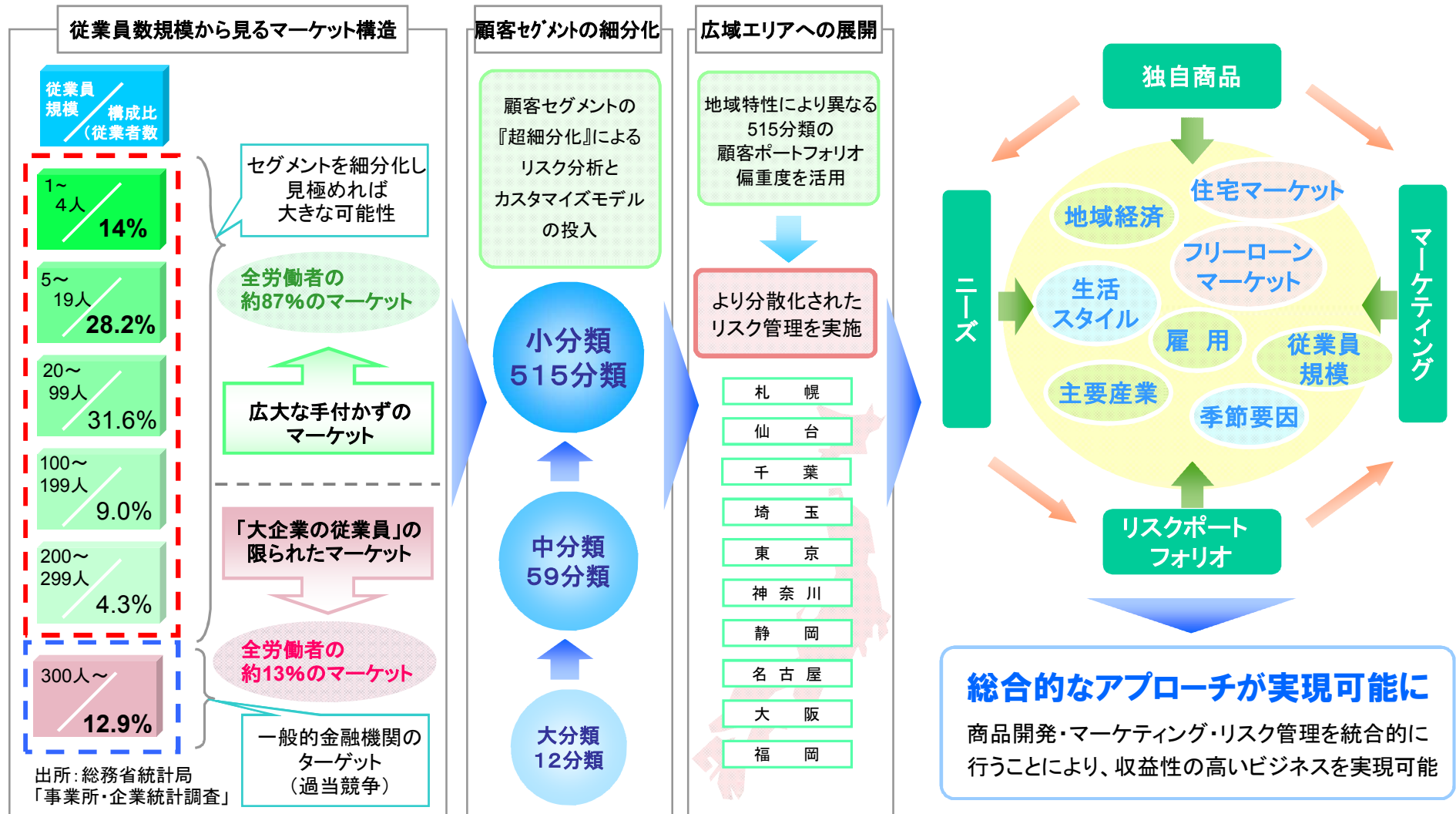
インターネット支店
顧客DB

地域特性に合った
商品・サービスの提供

各地域の
定量・定性情報

地域特性に柔軟に対応した商品開発

独自価値提供を実現する“スルガモデル”



住宅ローン事業を取り巻く環境認識①

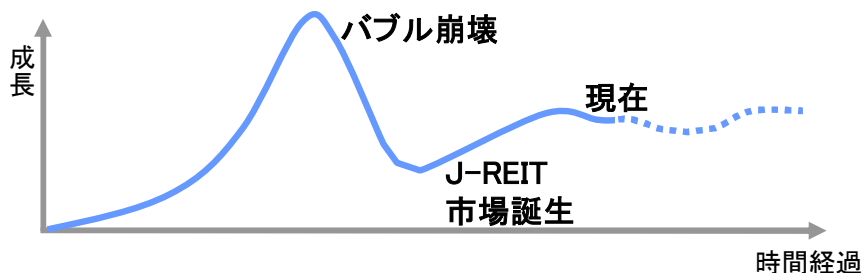
米国発の金融不安の国内不動産市場への波及

- 不動産価格の下落
都市圏を中心にしたミニバブルが調整局面へ
- 中堅・小規模デベロッパーの急激な財務内容悪化・倒産

潜在顧客の不動産買い控えによる案件数・実行数の減少

市場環境

- 実需に根ざした底堅い需要
- バブル期とは異なる市場の正常なメカニズムによる「調整局面」
- 市場参加者、対象不動産の二極化の構図
- 日本の不動産市場は循環的に変動しつつ成長する
- 調整局面を経て、より成熟したマーケットへ



RDB企業デフォルト率

		2008年8月期	対前年同比	(参考) 2007年8月	対前月
全体(2008年8月期)		3.07%	+0.55%p	2.52%	+0.07%p
業種	建設業	4.09%	+0.74%p	3.35%	+0.11%p
	卸売業	3.01%	+0.59%p	2.42%	+0.03%p
	不動産業	2.03%	+0.67%p	1.36%	+0.16%p
	小売飲食業	3.68%	+0.44%p	3.24%	+0.08%p
	その他サービス業	3.13%	+0.49%p	2.64%	+0.04%p
	製造業	2.18%	+0.45%p	1.73%	+0.03%p
地域	首都圏	2.94%	+0.55%p	2.39%	+0.21%p
	中京圏	2.76%	+0.37%p	2.39%	+0.02%p
	関西圏	3.05%	+0.23%p	2.82%	+0.10%p
	その他全国	3.31%	+0.73%p	2.58%	+0.01%p
規模	売上1億円未満	3.69%	+0.13%p	3.56%	+0.10%p
	売上1億円以上	2.82%	+0.67%p	2.15%	+0.18%p

出所: 日本リスク・データ・バンク

2008年1~8月の業種別倒産状況

単位: 億円

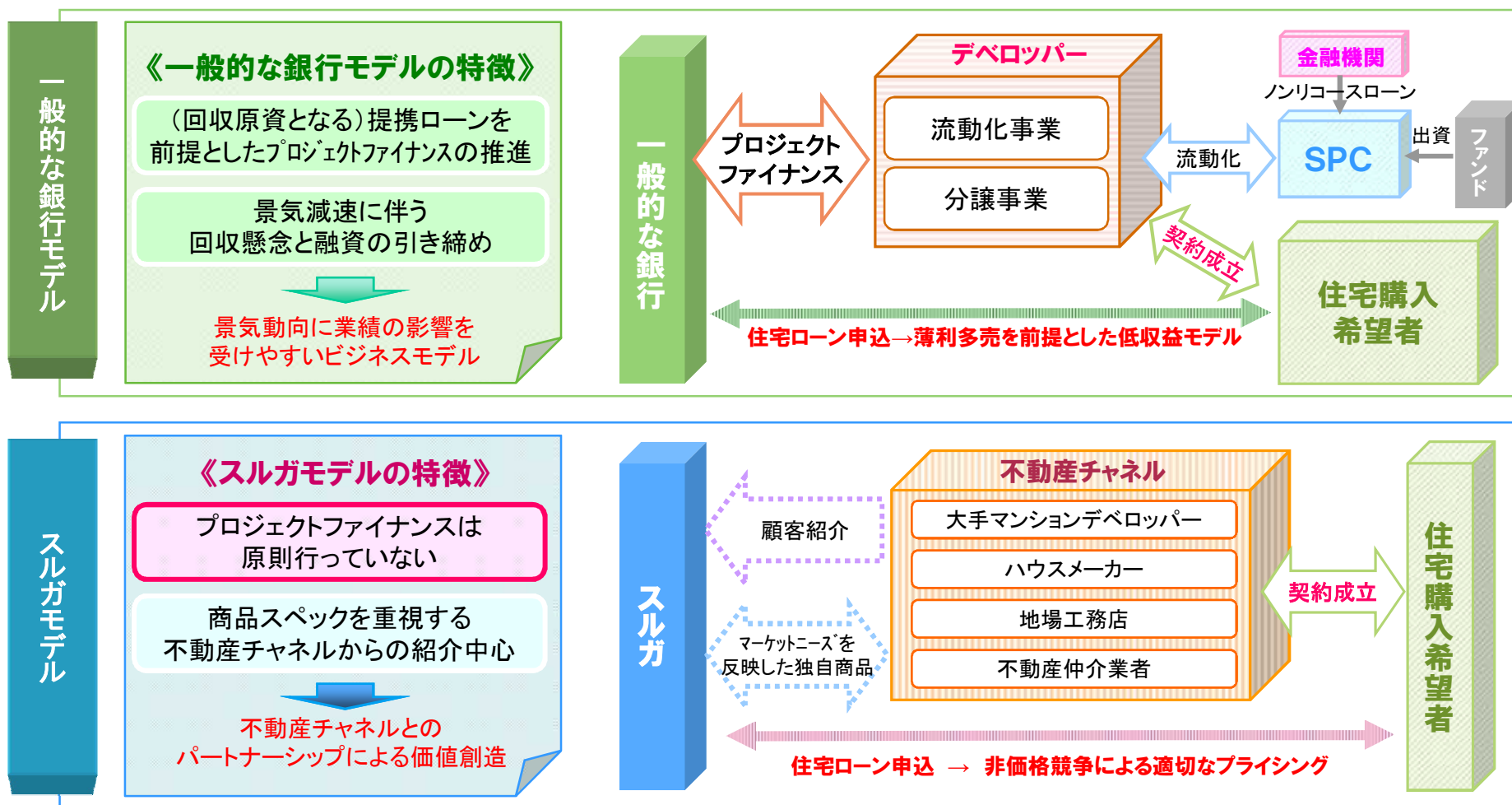
業種	件数	負債額
農林漁鉱業	56	277
建設業	2,948	8,251
製造業	1,464	5,774
卸売業	1,442	4,053
小売業	1,199	2,503
金融・保険業	65	3,082
不動産業	378	1兆3,492
運輸業	381	756
情報通信業	303	1,679
サービス業ほか	1,934	7,264
合計	10,170	4兆7,130

出所: 東京商工リサーチ

住宅ローン事業を取り巻く環境認識②

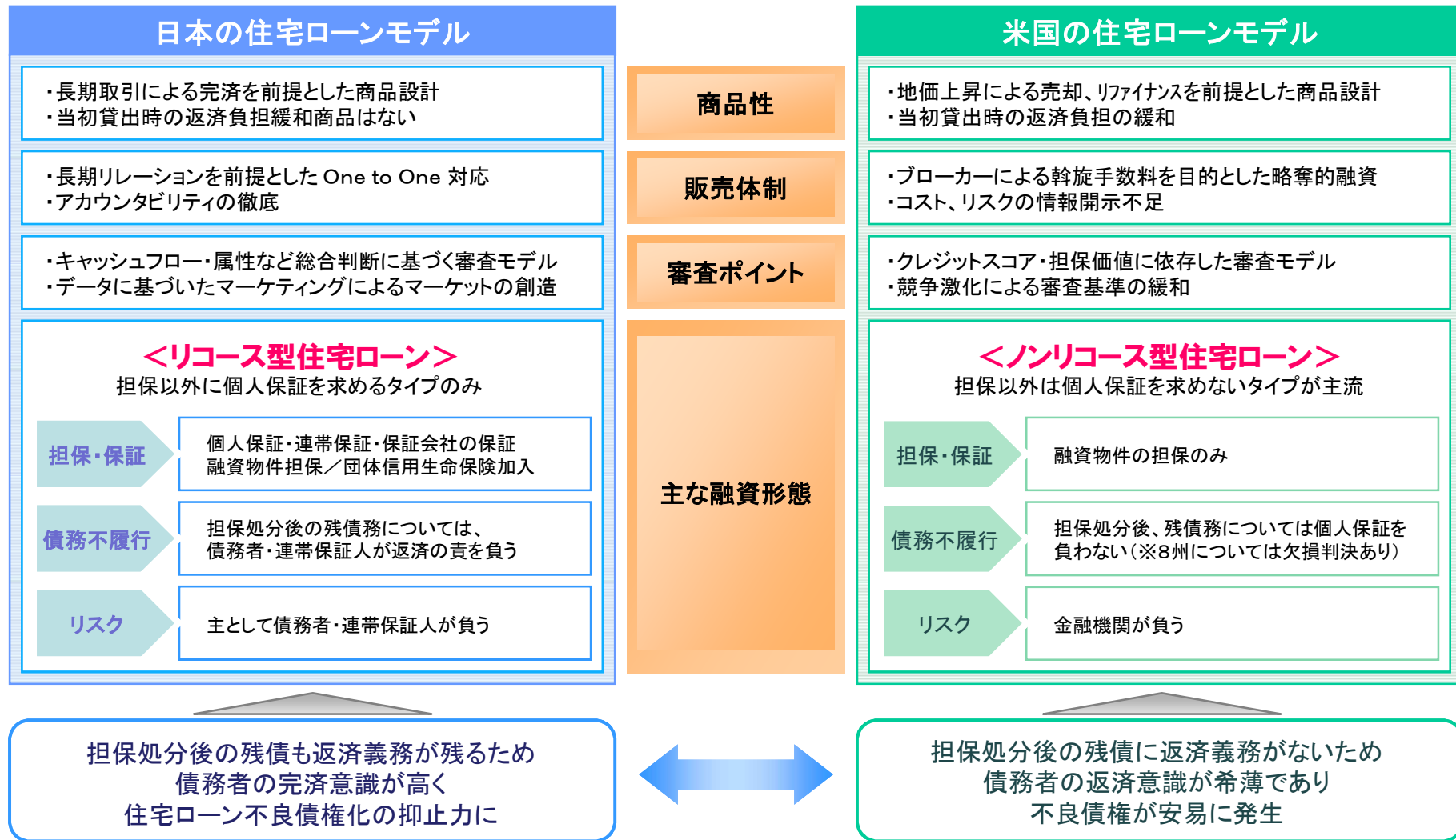
一般的な銀行とスルガのビジネスモデルの根本的な相違点

不動産チャネルとのパートナーシップによる市場創造による、独自の住宅ローン事業を追求



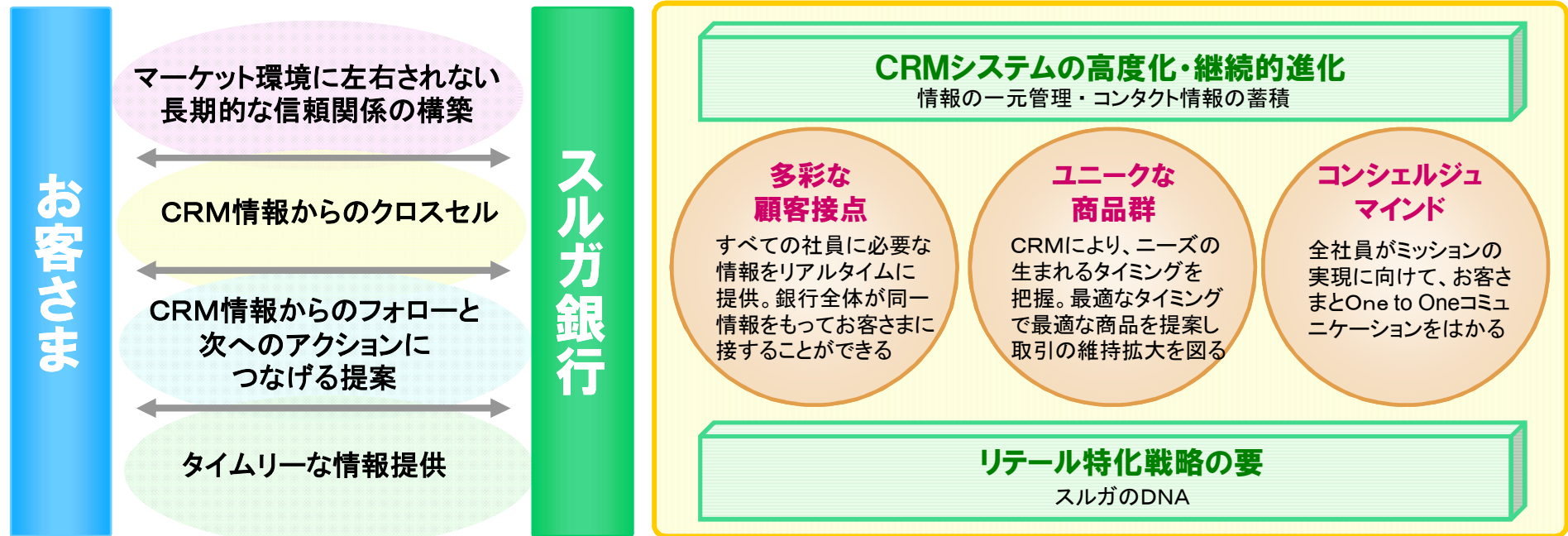
日本とアメリカにおける住宅ローンモデルの特徴

日米の住宅ローンモデルの違い



CRMが創るお客さまとの強固なリレーション

お客さまの生涯価値の最大化を実現するCRM

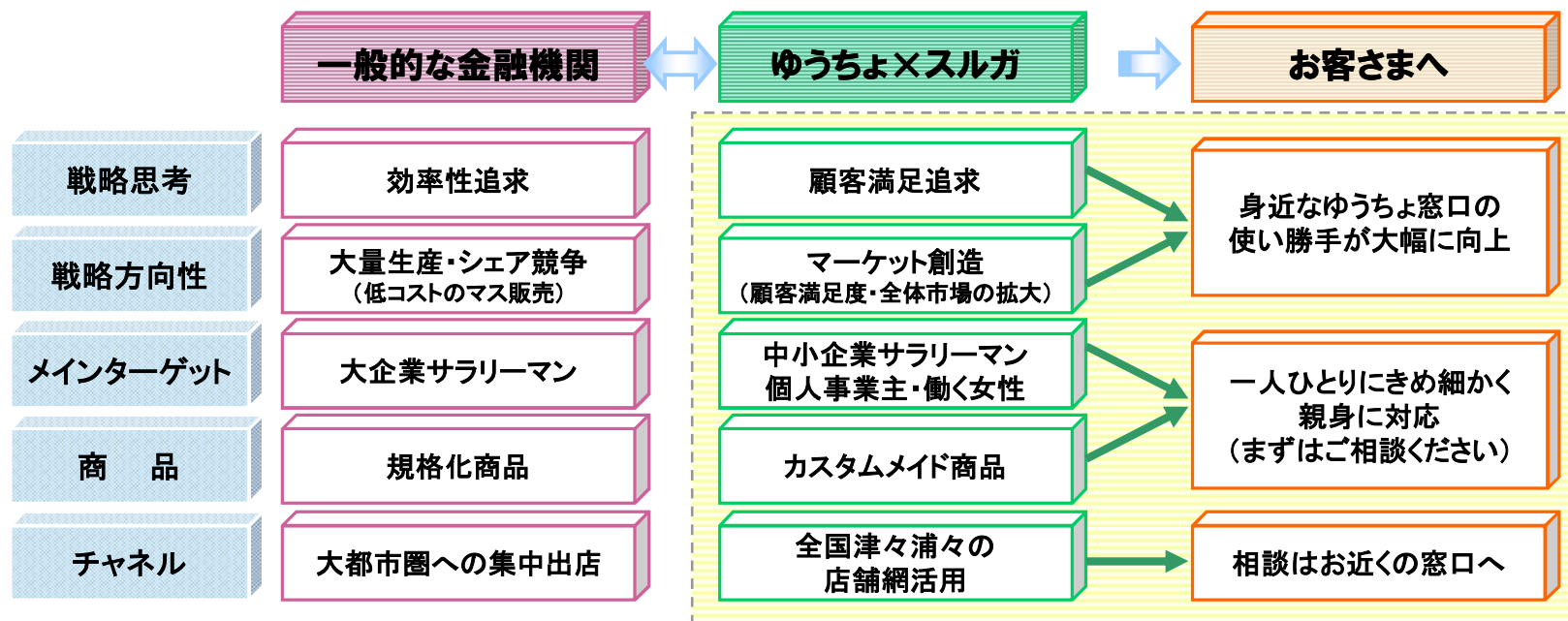


	普通預金	運用商品				ダイレクトバンク		クレジットカード	カードローン	フリーローン	住宅ローン		公共料金	
		定期預金	投資信託	個人年金	保障性保険	テレフォンバンキング	インターネットバンキング				HL	ワイド	携帯電話	電気
顧客A	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆		☆	
顧客B	☆	☆	☆						☆	☆	☆		☆	
顧客C	☆				☆		☆	☆	☆	☆		☆		☆
顧客D	☆													
顧客F	☆					☆								

☆ ←High Relation Client
 ☆ ←購入済商品・サービス
 ☆ ←今後勤めていく商品・サービス

〈ゆうちょ×スルガ〉の個人ローン業務ビジョン

「お客さま」のニーズを大切に考えたローンをご提供していこうと考えています。
 「お話を聞くところから始める」これが私たちのスタートです。



※50店舗での個人ローン取扱いとなります

シナジー効果を最大限に発揮

ゆうちょ銀行の強み

地域に根ざした情報・店舗網を
活用した営業展開

“ネットワークとブランド”

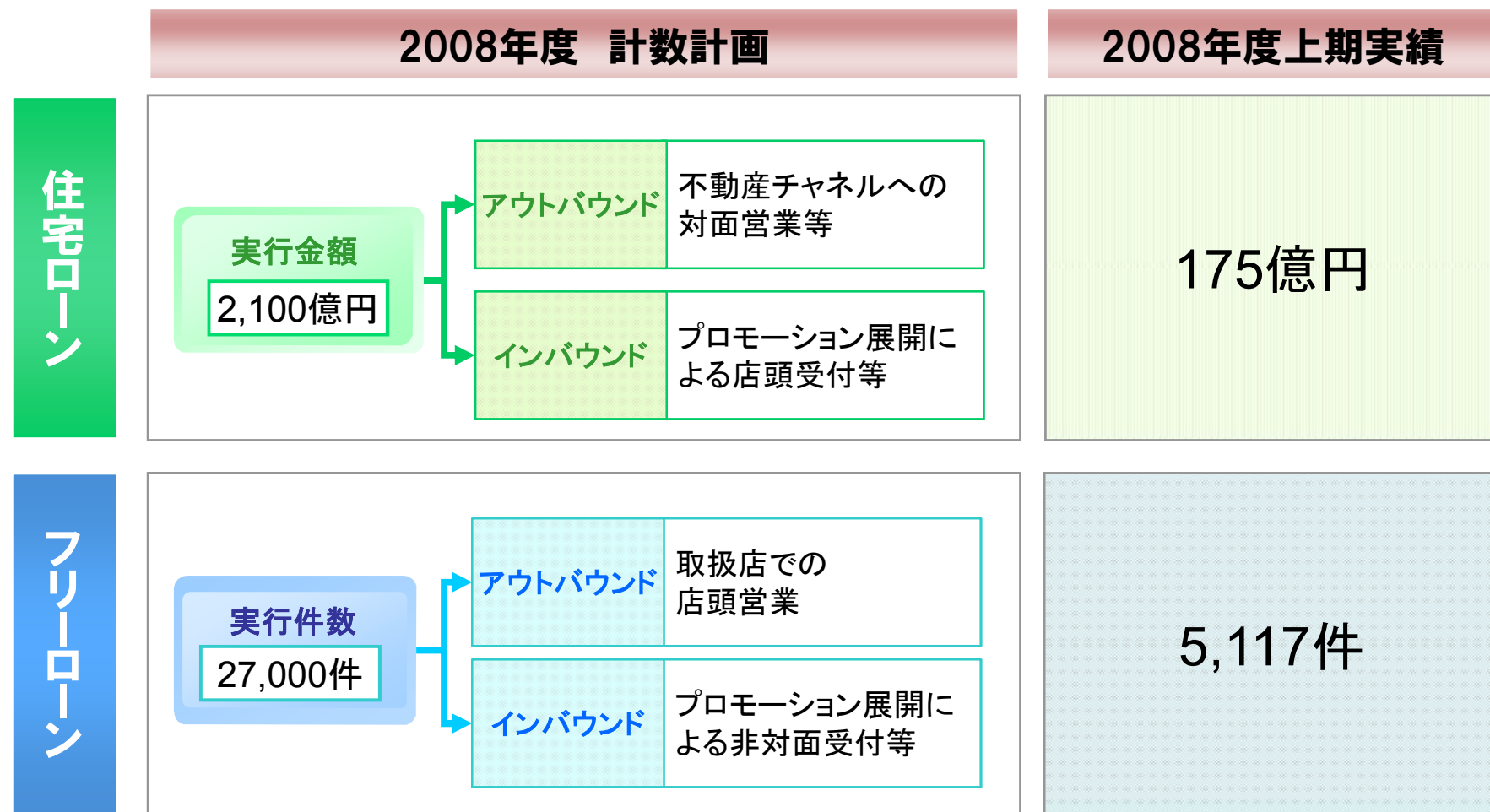
スルガの強み

独創性溢れる商品性を最大限に引き出す
営業スキルと審査スキルが
有機的に機能し、高収益個人ローン事業を実現

“リテールノウハウ”

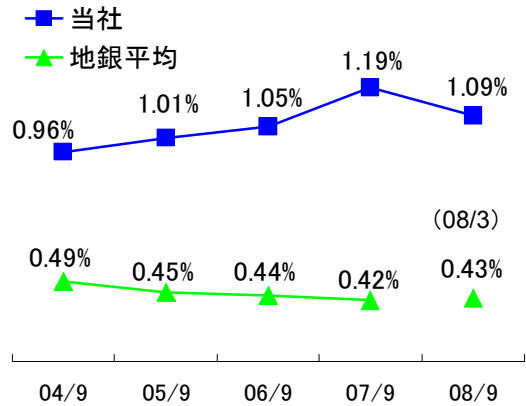
ゆうちょ銀行との業務提携

2008年度 計数計画と実績

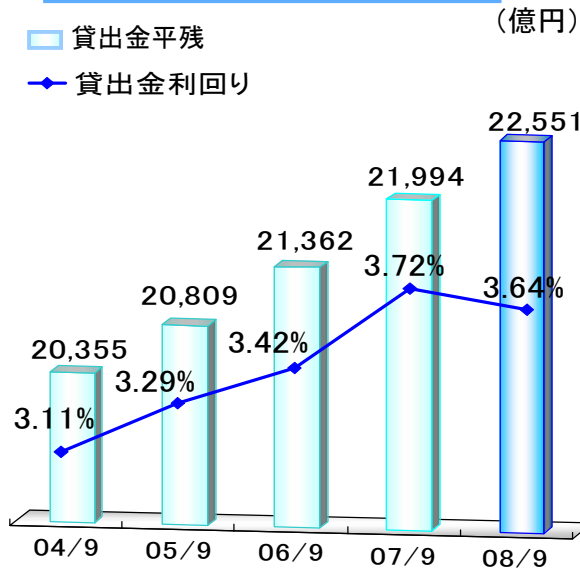


利ざや等の状況(全体)

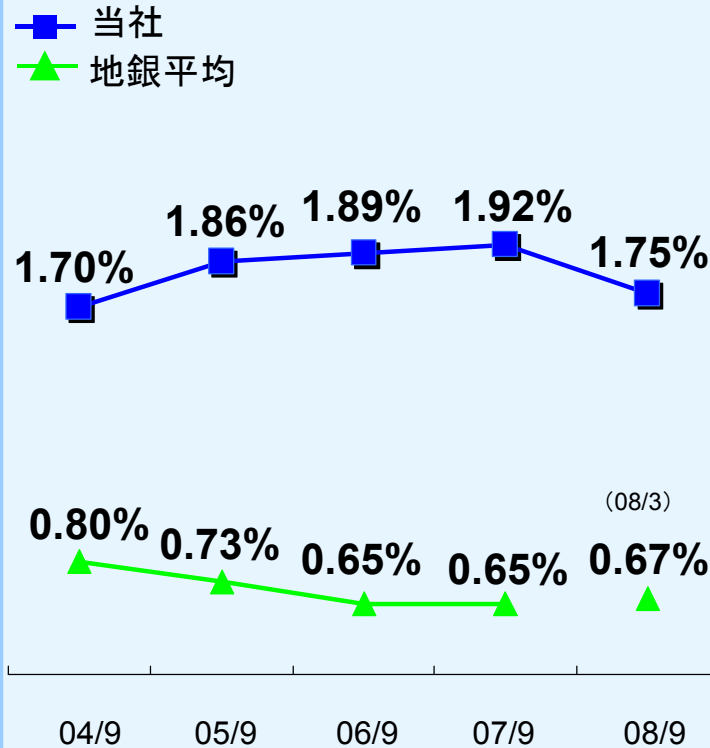
総資金利ざや



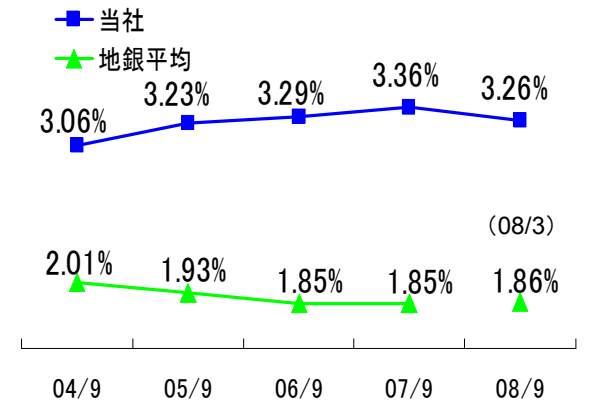
貸出金利回りと貸出金平残



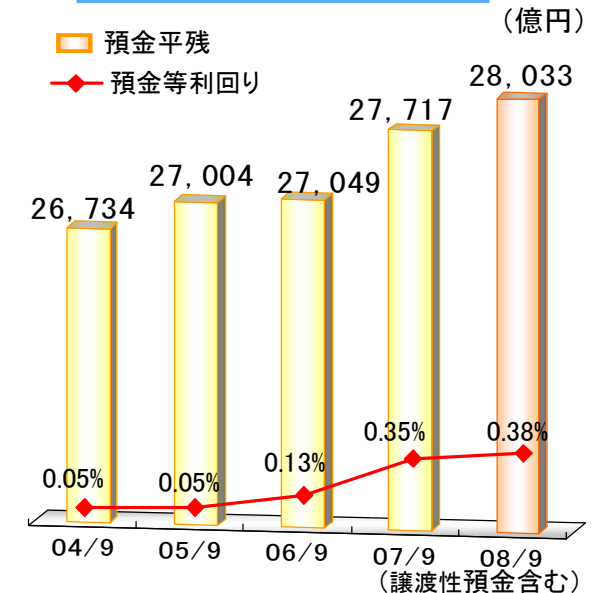
預貸金利ざや



預貸金粗利ざや



預金等利回りと預金平残



利ざや等の状況(国内)

利回り・経費率の状況

■ 貸出金利回り ▲ 経費率 ◆ 預金等利回り

3.17% 3.20% 3.25% 3.60% 3.65%

3.17% 3.20%

3.25%

3.60%

3.65%

1.31%

1.32%

1.35%

1.40%

1.48%

0.05%

0.04%

0.08%

0.27%

0.33%

04/09

05/09

06/09

07/09

08/09

預貸金利ざや

■ 預貸金利ざや(当社)

■ 預貸金利ざや(地銀平均)

1.80% 1.83% 1.81% 1.92% 1.83%

0.83%

0.77%

0.70%

0.71%

(08/3)

0.72%

04/9

05/9

06/9

07/9

08/9

預貸金粗利ざや

◆ スルガ

■ 地銀平均

3.12% 3.15% 3.17% 3.32% 3.31%

2.03%

1.96%

1.88%

1.90%

(08/3)

1.90%

04/9

05/9

06/9

07/9

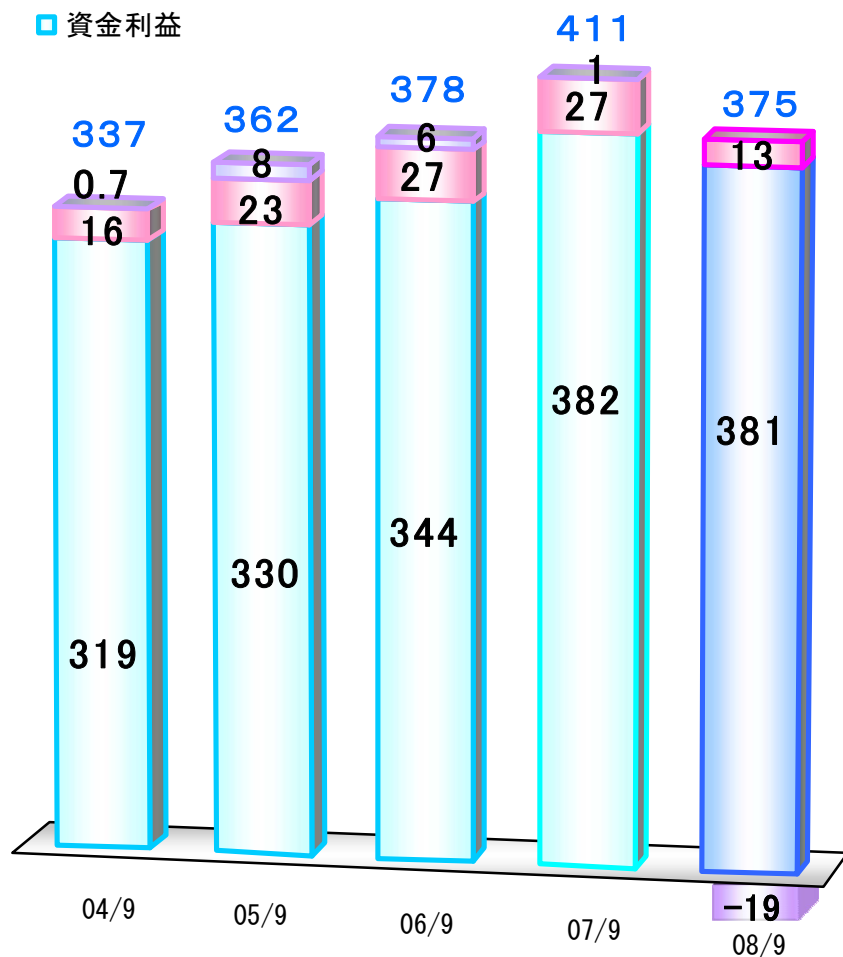
08/9

業務粗利益と円貨預貸金利益の推移

業務粗利益の推移

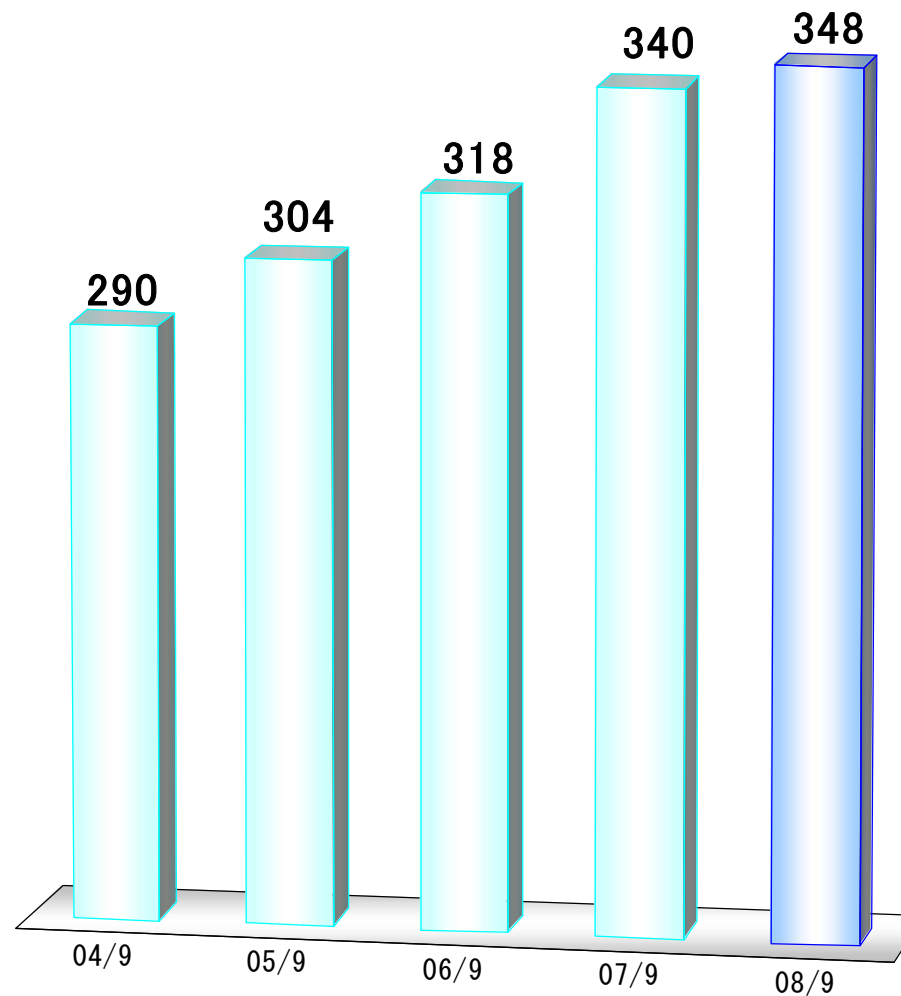
(億円)

- その他業務利益
- 役務利益
- 資金利益



円貨預貸金利益の推移

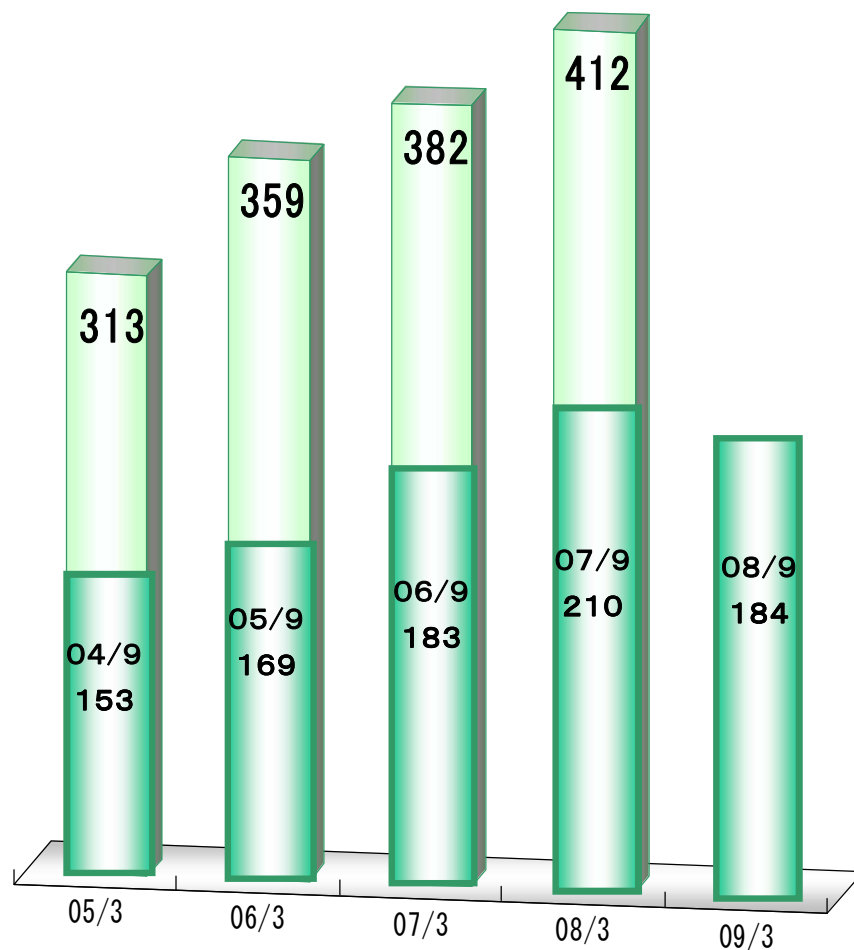
(億円)



コア業務純益と当期(中間)純利益の推移

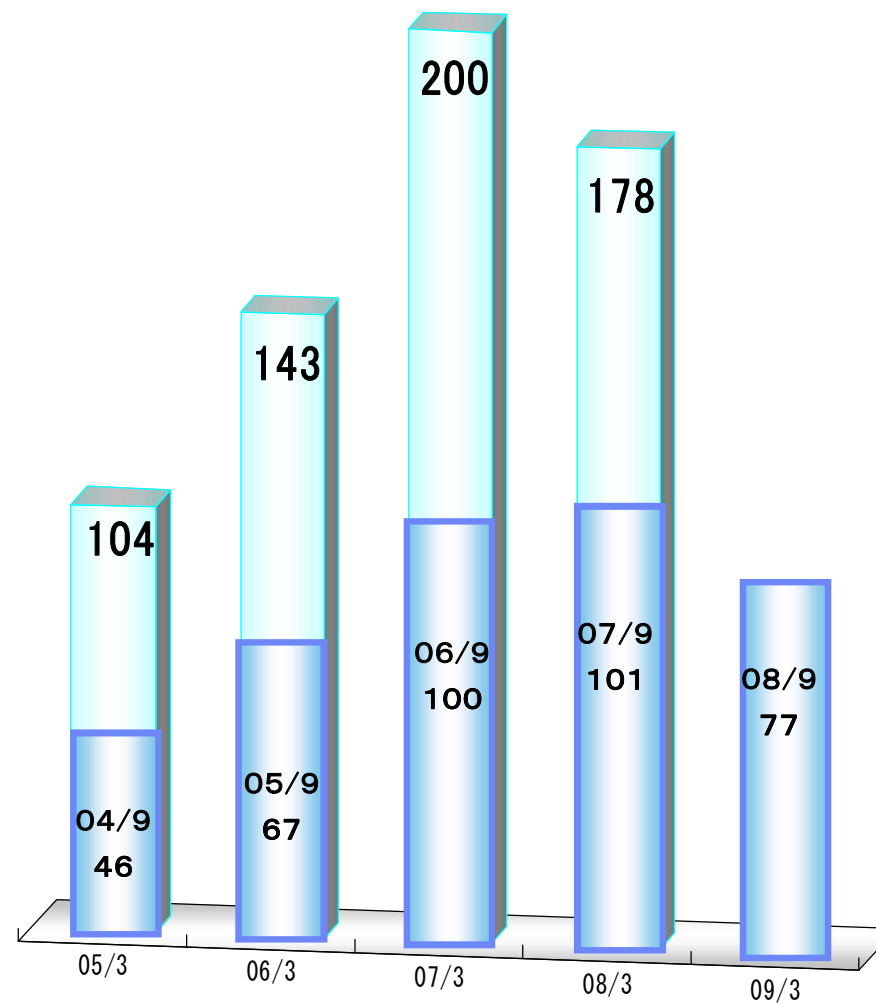
コア業務純益の推移

(億円)



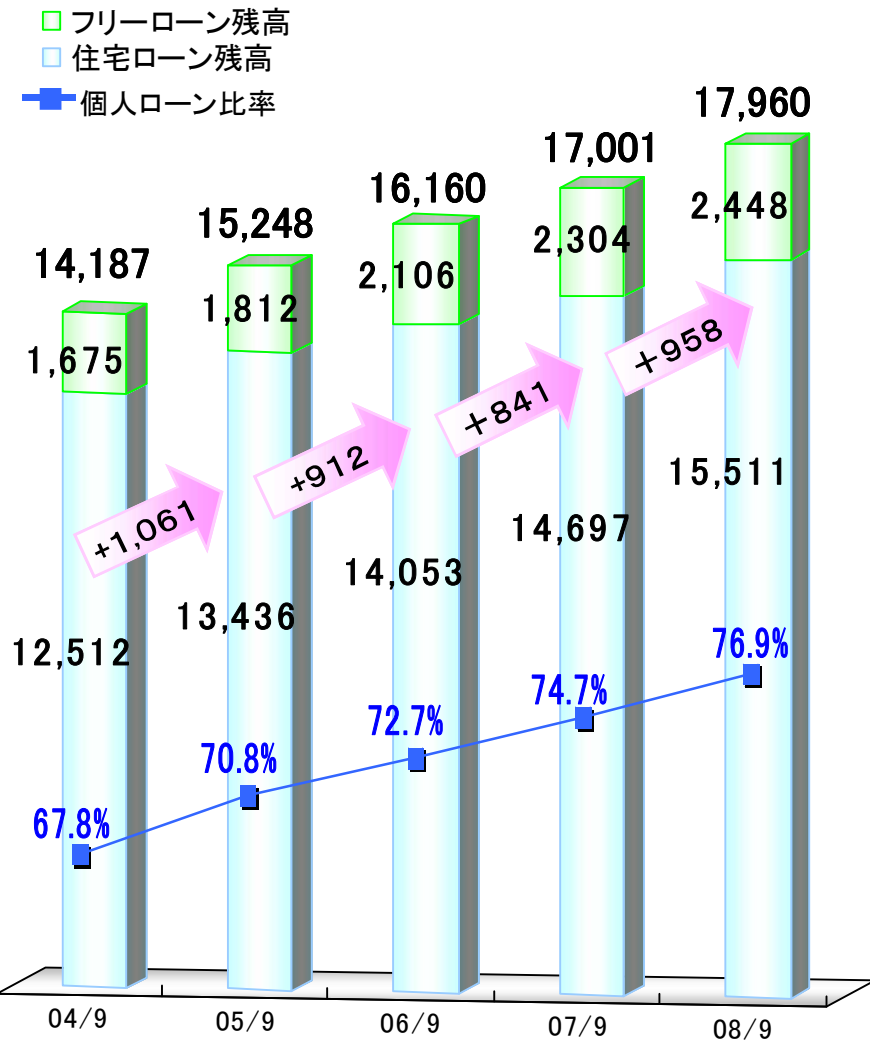
当期(中間)純利益の推移

(億円)

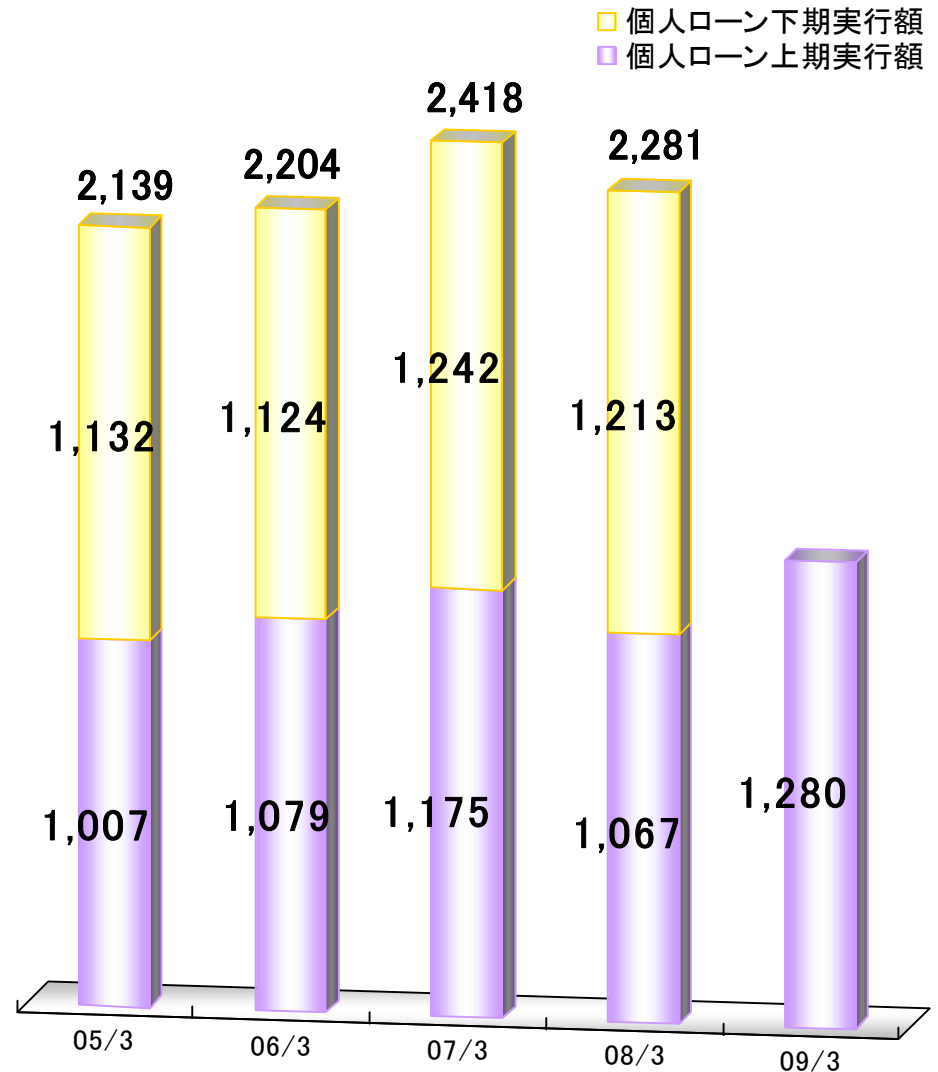


個人ローンの状況①

個人ローン残高・個人ローン比率 (億円)

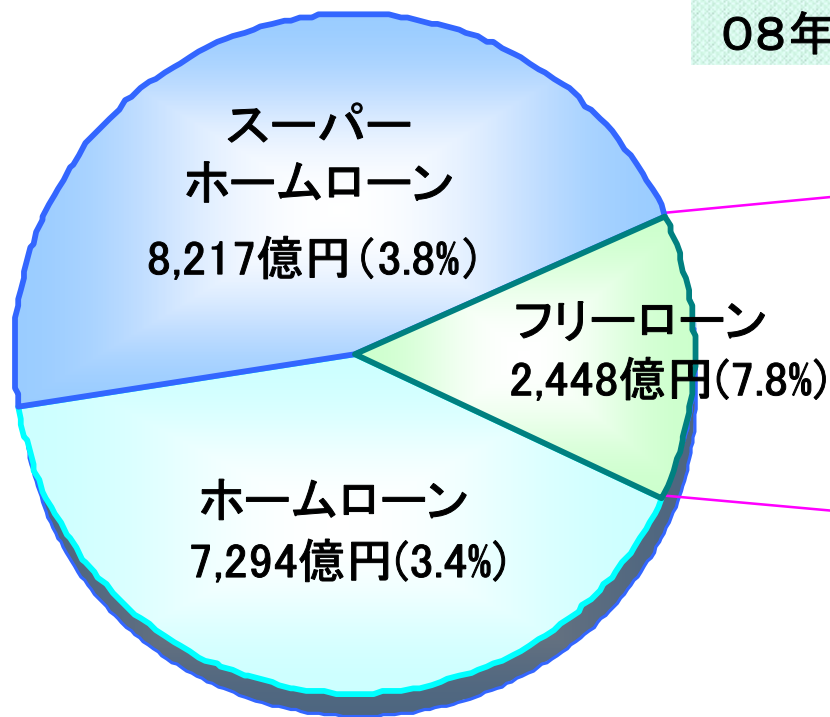


個人ローン実行額 (億円)



個人ローンの状況②

個人ローン残高内訳・平均レート



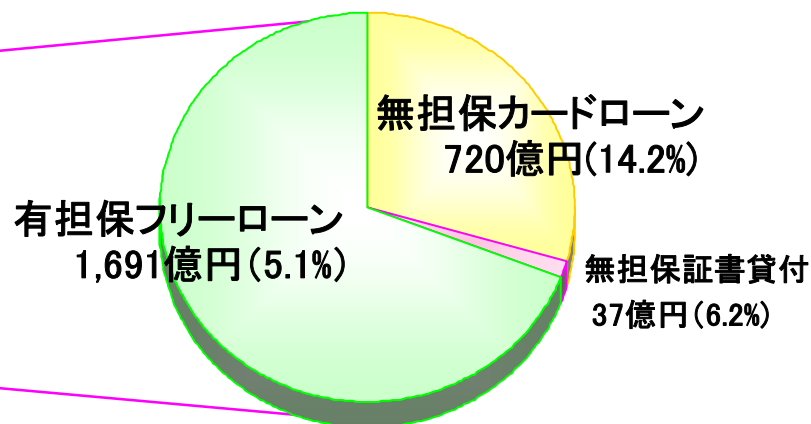
100%=17,960億円 (4.1%)

(注) ()内は平均レート

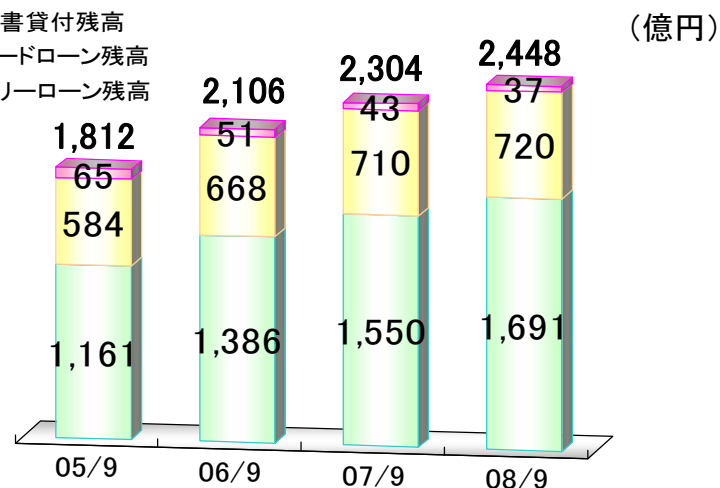
フリーローン残高内訳・平均レート

08年9月末

100%=2,448億円 (7.8%)



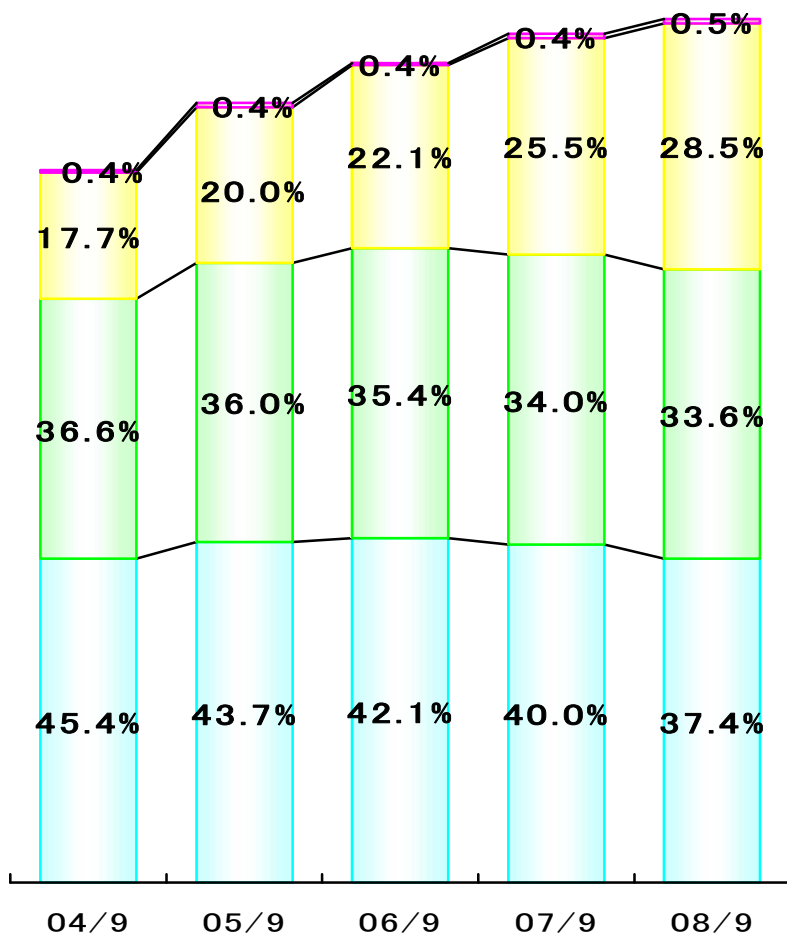
- 無担保証書貸付残高
- 無担保カードローン残高
- 有担保フリーローン残高



住宅ローンの状況

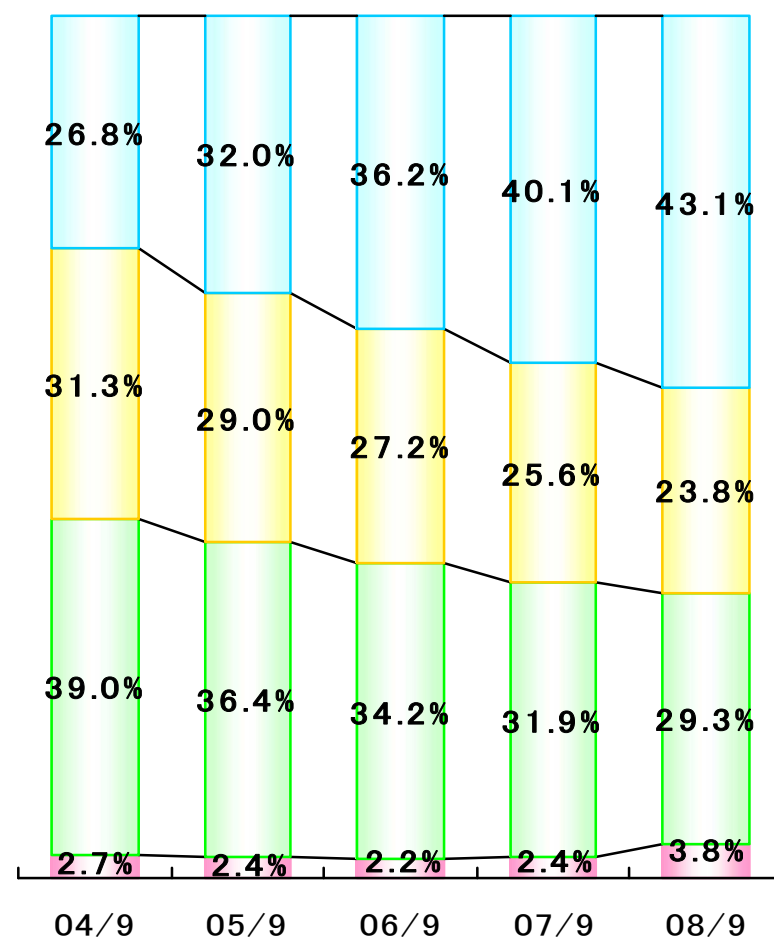
住宅ローン実行レート分布（累積）

□ 3%未満 □ 3%台 □ 4%台 □ 5%以上



住宅ローン地域別残高比率

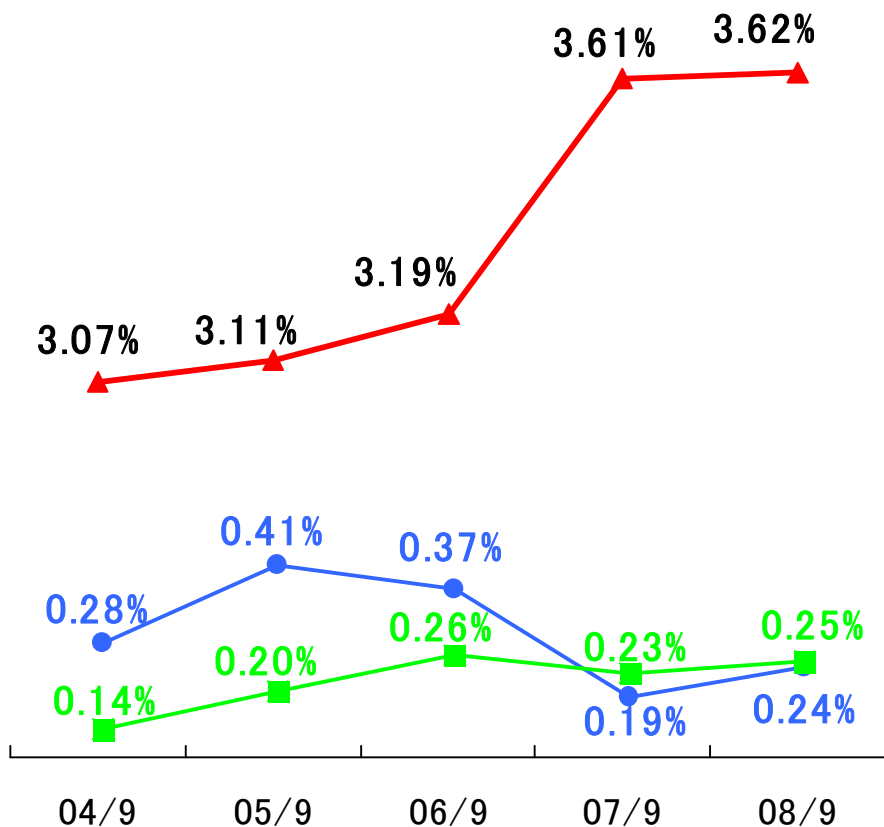
□ 首都圏 □ 神奈川 □ 静岡 □ その他



個人ローンの延滞率・毀損率の状況

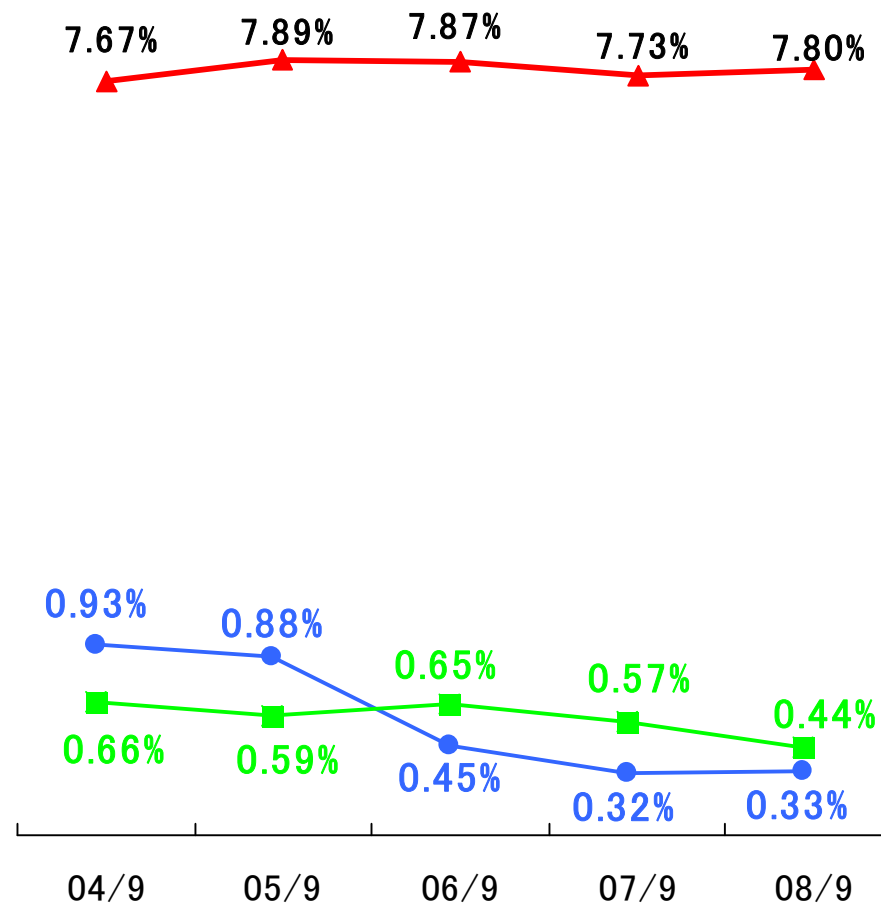
住宅ローン

▲ 利回り ● 延滞率 ■ 毀損率



フリーローン

▲ 利回り ● 延滞率 ■ 毀損率

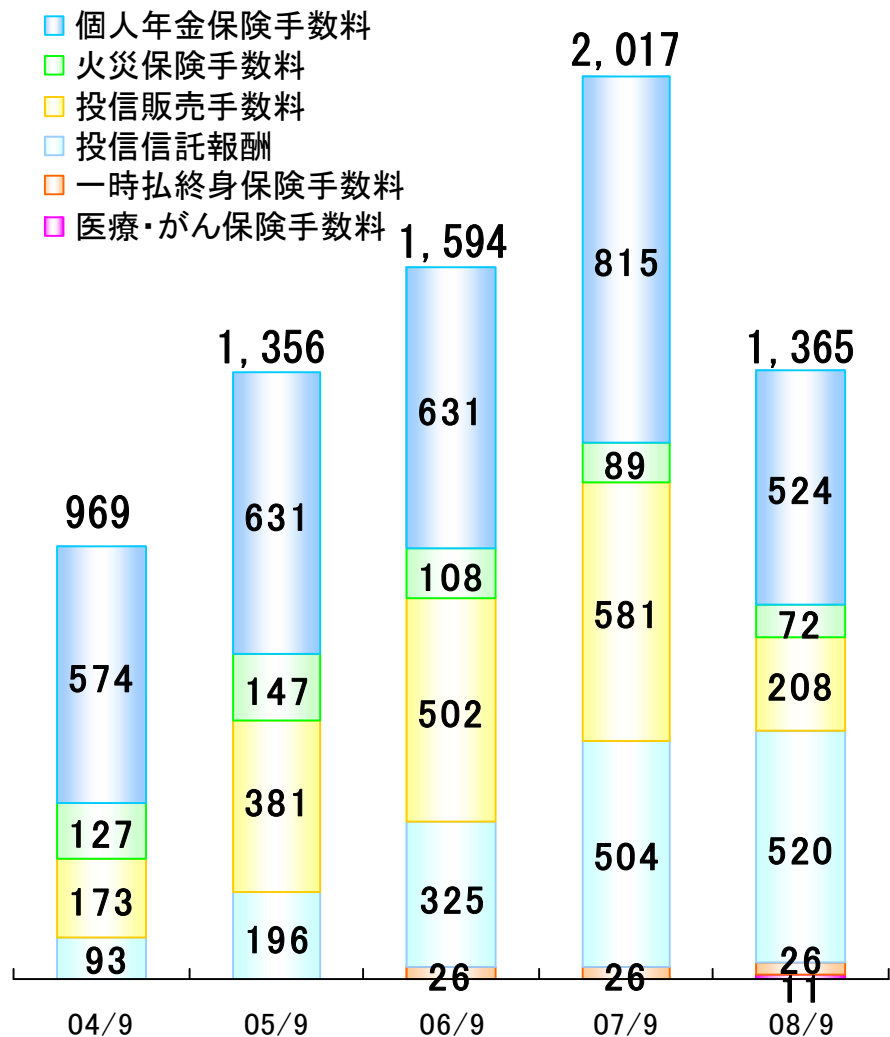


※延滞率=3ヶ月以上延滞債権 ÷ ローン残高、毀損率=デフォルト率 × (1 - 回収率)

投資性商品<手数料・残高>推移(個人)

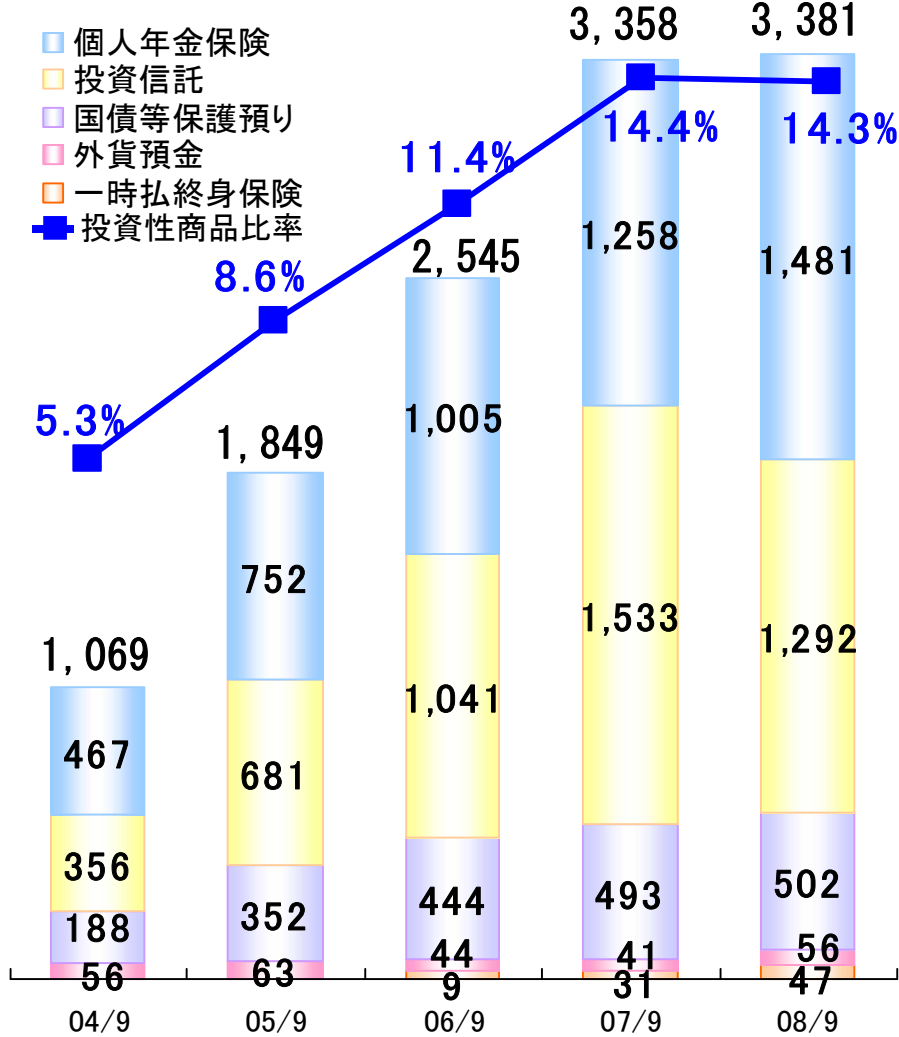
投信・保険手数料収入

(百万円)



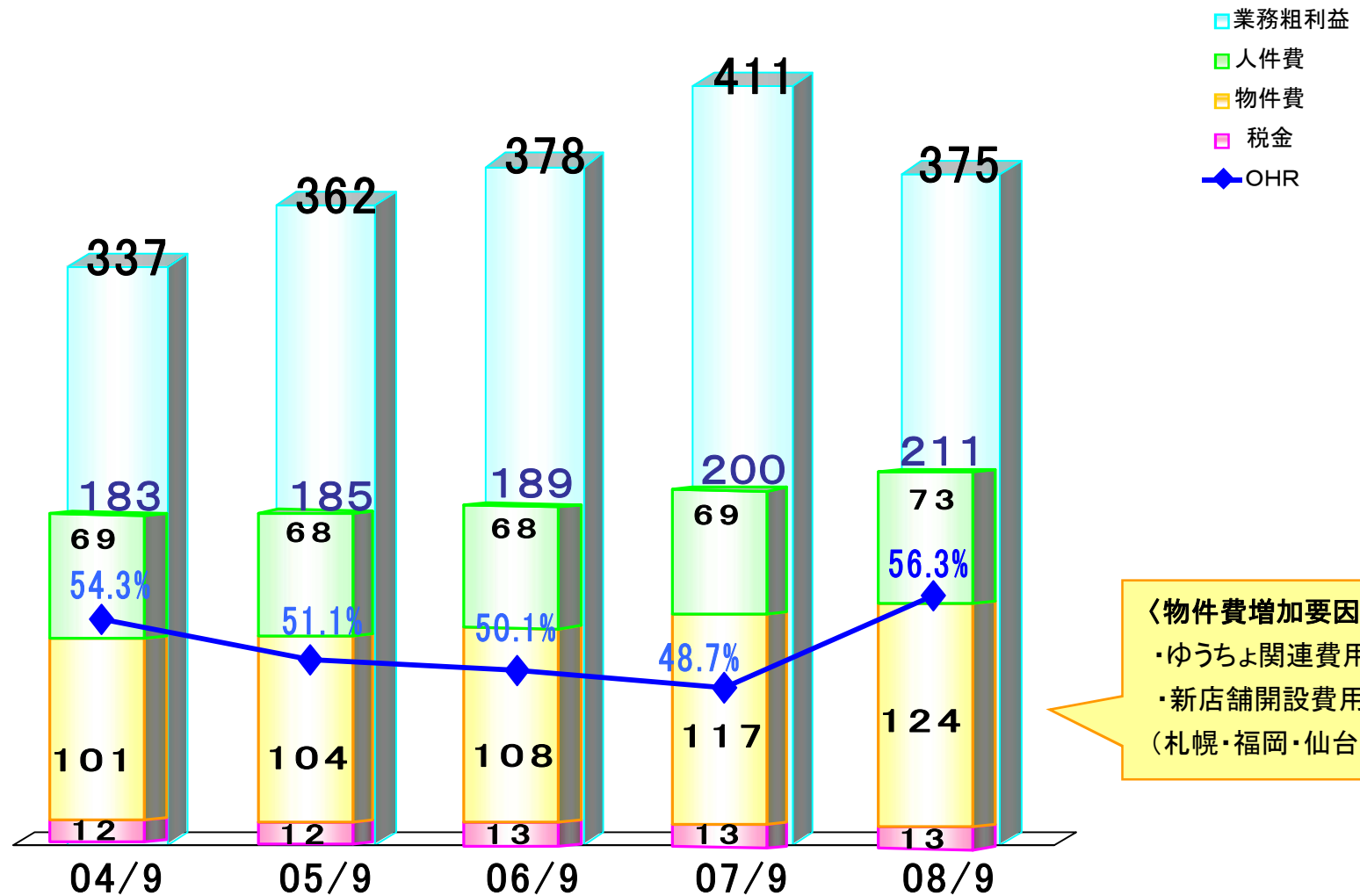
投資性商品残高内訳(個人)

(億円)



経費・OHRの状況

(億円)



金融再生法開示債権詳細

(億円)

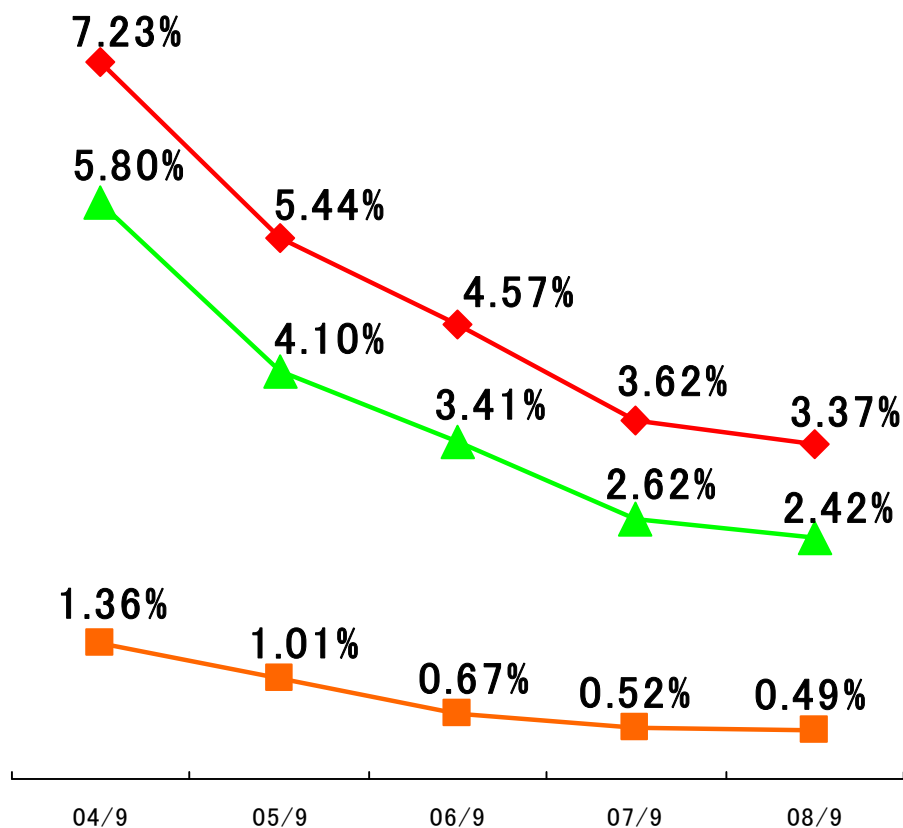
開示区分	08年09期 与信残高	構成比	法人・個人別 与信残高		構成比	担保・ 保証合計	担保	保証	保全率	引当	引当率	カバー率	
破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権	159	0.67%	個人	103	0.57%	62	48	14	60.61%	40	100%	100%	
			法人	55	1.00%	44	24	19	79.52%	11	100%	100%	
危険債権	316	1.34%	個人	47	0.26%	25	16	9	54.51%	14	68.25%	85.55%	
			法人	269	4.88%	163	76	86	60.50%	95	89.61%	95.89%	
要管理債権	317	1.35%	個人	70	0.39%	55	51	4	78.72%	4	27.87%	84.65%	
			法人	247	4.47%	103	102	1	41.88%	56	39.66%	64.93%	
合 計	793	3.37%	個人	221	1.23%	144	115	28	65.06%	59	77.18%	92.03%	
			法人	572	10.37%	310	203	107	54.30%	163	62.63%	82.92%	
正常債権	22,737	96.62%	個人	17,791	98.76%							カバー率合計	85.46%
			法人	4,945	89.63%								
総与信合計	23,530	100%	個人	18,012	100%								
			法人	5,518	100%								

保全率 : 担保・保証による保全率
 引当率 : 無担保部分への引当率
 カバー率 : 担保・保証・引当を考慮したカバー率

開示債権比率／与信費用の状況

開示債権比率の推移

- ◆ 開示債権比率
- ▲ 開示債権比率(引当金控除後)
- 開示債権比率(担保・保証・引当金控除後)

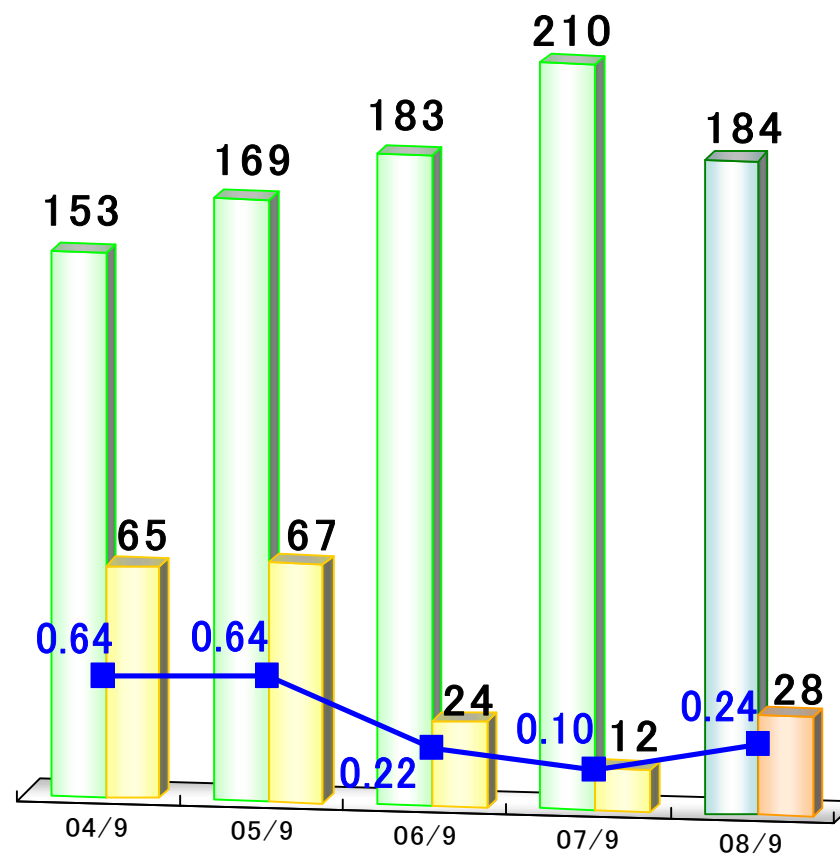


与信費用の状況

【半期ベース】

(億円)

- コア業務純益
- 実質与信費用(与信費用-償却債権取立益)
- 実質与信費用比率(実質与信費用/貸出金平残)(%)

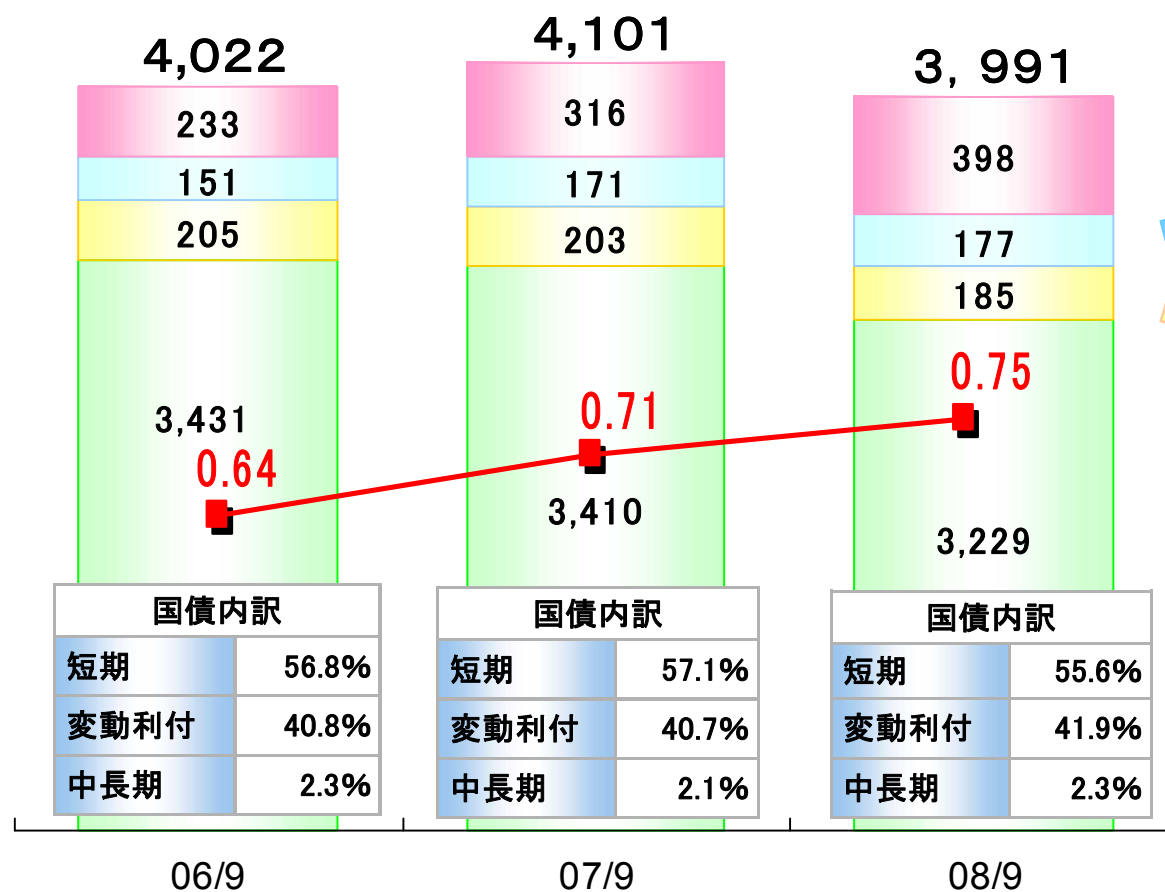


債券ポートフォリオの状況

□ 国債 □ 外国債券 □ 社債 □ 地方債

—■— 平均残存期間(年)

(億円)



【社債内訳】

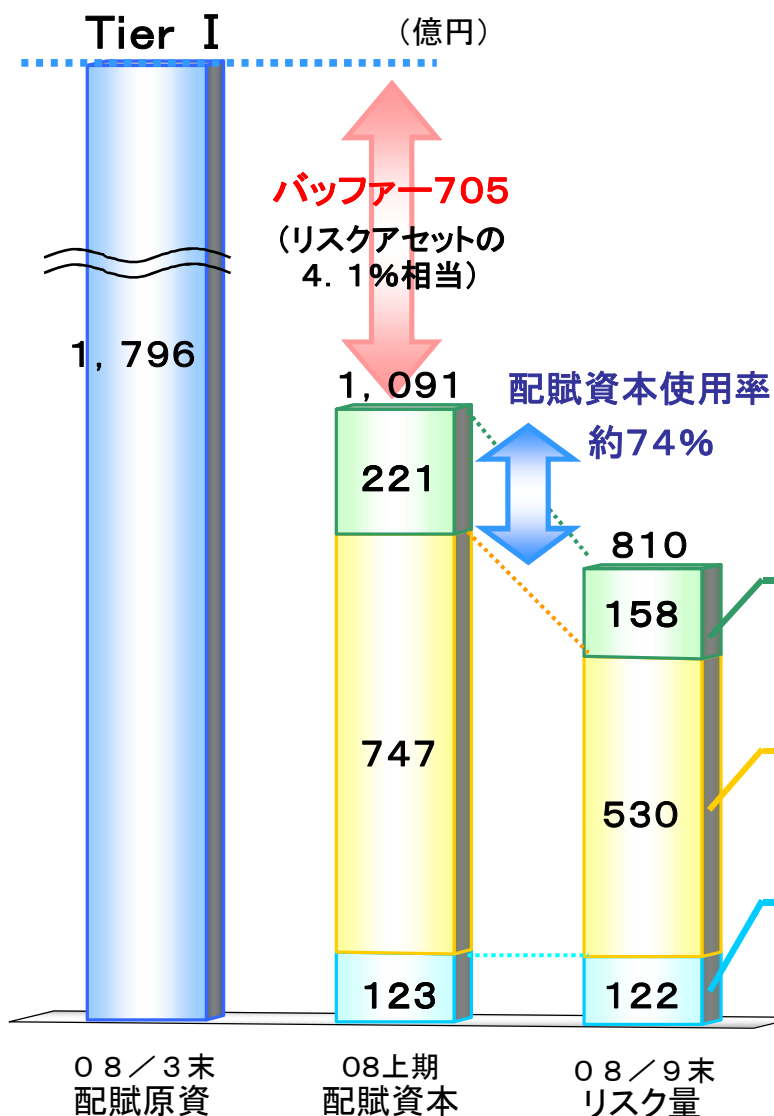
公社債	56 億円
金融債	68 億円
事業債	52 億円

うち円建外債 174 億円

【担保債券等】

JGB	135 億円
外国証券会社	14 億円
国内上場会社	24 億円

リスク量の状況



繰延税金資産 236億円
 繰延税金資産控除後
 Tier I 比率 9.32%

ターゲット 10%台へ

地震リスク 約500億円
 (当社試算による)

08年9月末

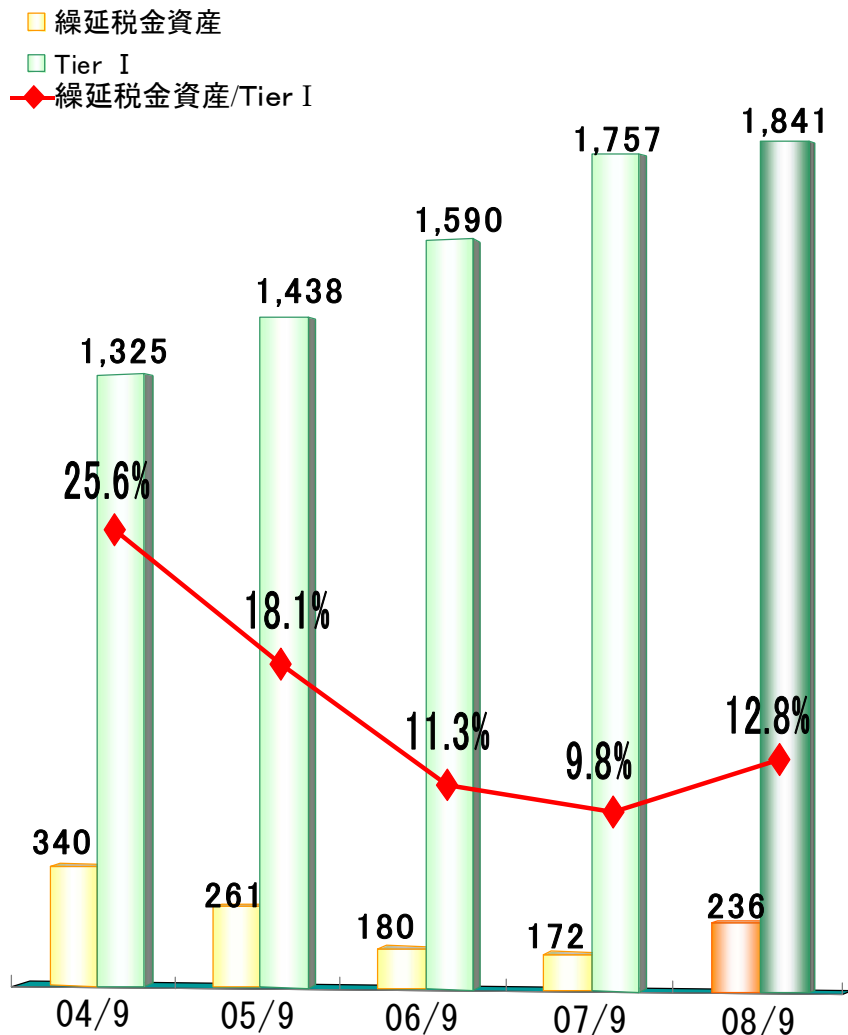
金利ショック方式	±200bp
金利リスク量	71億円
アウトライヤー比率	3.6%

- 信頼水準 99%(共通)
- 保有期間(営業日)
 - 信用リスク 240日
 - 預貸金、債券等
金利・価格変動リスク 60日
(トレーディング勘定は 10日)
 - 株式 価格変動リスク 120日
- オペレーショナルリスク
基礎的手法

自己資本の状況

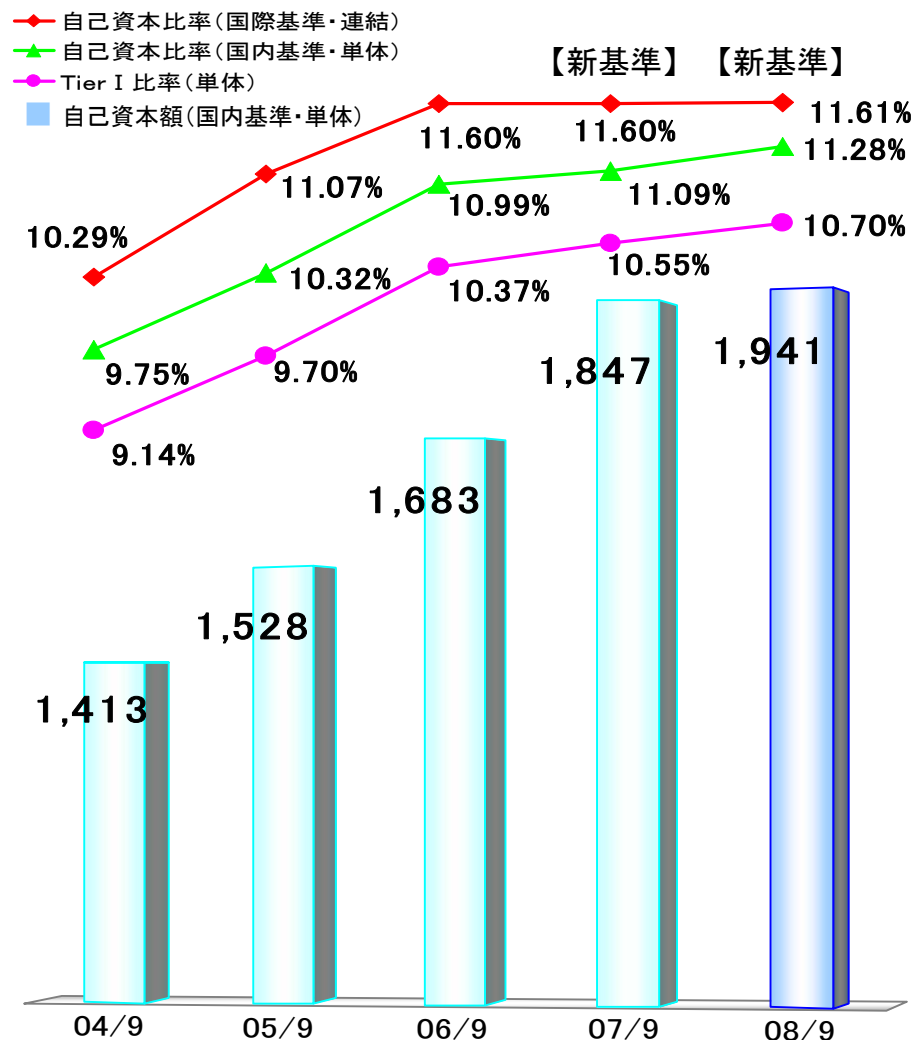
Tier I 資本・繰延税金資産

(億円)



自己資本比率

(億円)



2008年度中間期業績及び通期見通し

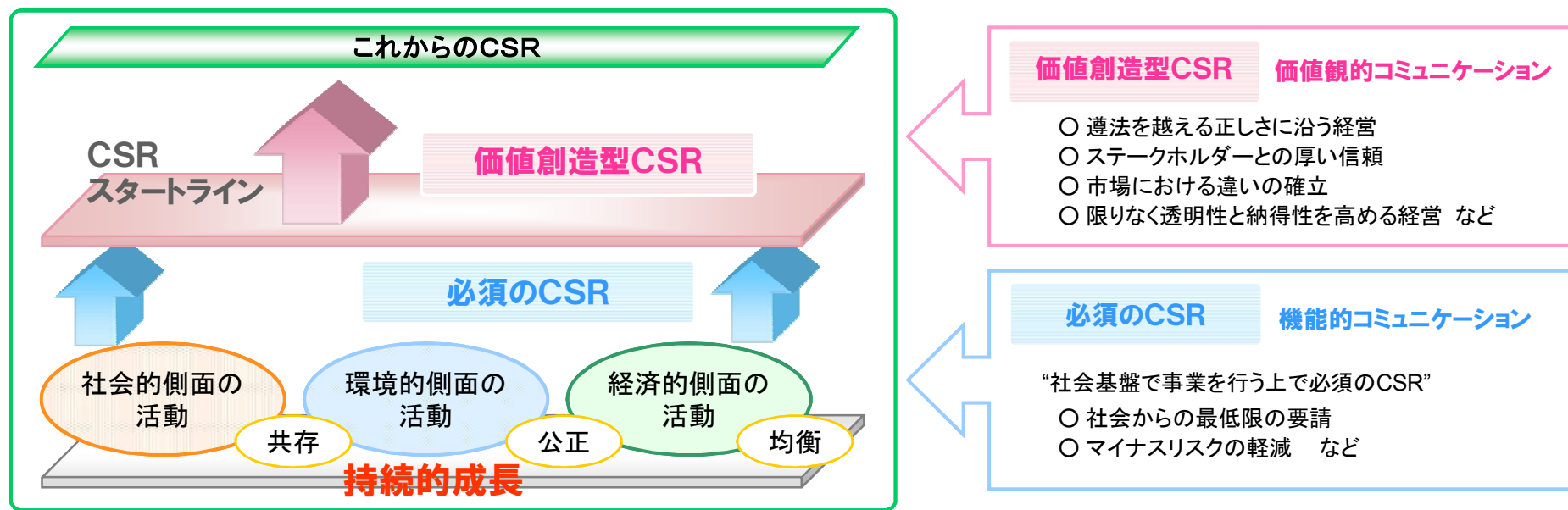
(億円)

	2008年度 中間期			2007年度 実績	2008年度 通期見通し
	当初見通し (A)	実績 (B)	見通し比 (B-A)		
業務粗利益	420	375	▲44	796	850
経費等	215	211	▲3	398	420
業務純益	205	173	▲31	416	430
コア業務純益	205	184	▲20	412	430
経常利益	175	129	▲45	326	370
当期純利益	105	77	▲27	178	220
実質与信費用	30	28	▲2	38	60

スルガの考える社会的責任

これからのCSR

「<夢をかたちに>する、<夢に日付を>いれるお手伝い」を企業理念とするスルガは、顧客価値の提供と夢の実現のお手伝いを通じて、ステークホルダーのご期待に応え社会的責任を果たしてまいります



環境への取り組み

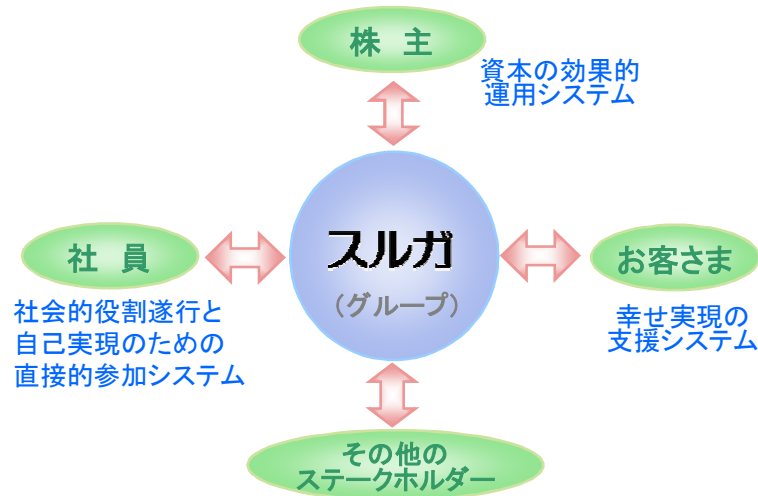
環境に配慮した金融商品の開発や、環境保全活動に取り組んでいます

- スルガ平本部におけるISO14001活動
- インターネットバンキングでのふじさんネットワークへの募金
- チーム・マイナス6%への参加 など
- カーボンオフセット付き住宅ローン

経営理念における成長のあり方

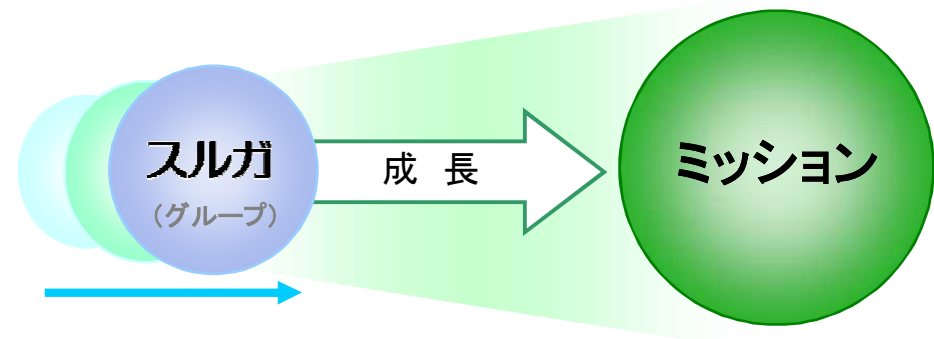
“価値交換システム”としての成長

各ステークホルダーとの価値交換性の向上を成長と定義する

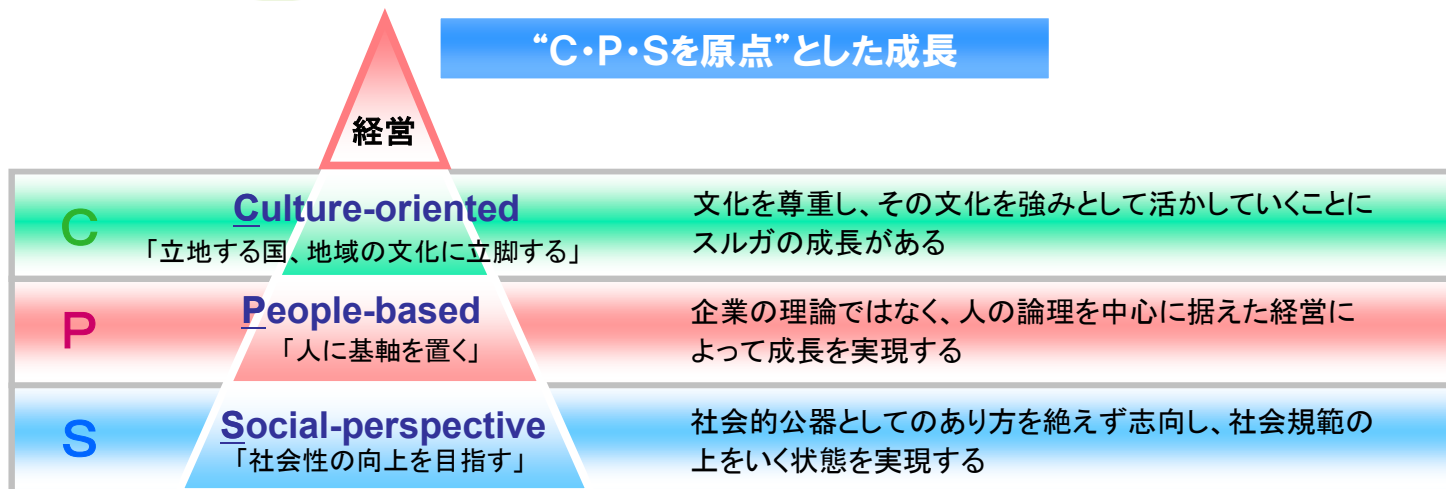


“使命型企业”としての成長

「ライフ アンド ビジネス コンシェルジュとして〈夢をかたちに〉する、
〈夢に日付を〉いれるお手伝い」をするというミッションの
実現性の向上を成長と定義する



“C・P・Sを原点”とした成長



<本件に関する照会先>
スルガ銀行
経営企画部企画(IR広報)

[TEL] 03-3279-5536

[メールアドレス] ir.koho@surugabank.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。